

進路指導部だより

道しるべ

天王みどり学園 進路指導部

第130号

平成28年11月1日発行



地域の一員として、一人一人が輝き、進んで社会参加できる児童生徒の育成

保護者進路学習会

平成26、27年度に卒業した3名の卒業生の保護者をお迎えして、保護者進路学習会が行われました。心に残ったエピソードをいくつか紹介します。

《今の生活から》

卒業生の中には、朝遅く登園し、早く帰ってくる日々让生活リズムを崩す子もいるようだ。子どもは、学校生活とあまり変わらない時間帯のせいか、大きくリズムを崩さず過ごしている。

《「できる」ことと「する」こと》

子どもは、着替えは一人でできるのだが、この夏とても暑い日が続き、通勤や勤務で汗をかきたろうと着替えをもたせていたが、着替えができず体臭が気になる状態だった。「なぜ着替えが必要か」、「どのタイミングで着替えればよいか」を具体的に教えなければならぬと感じた。

《これから挑戦したいこと》

施設には、学校と違い様々な年代の利用者がいる。同時に多様な生活をしていることから、子どもも自然と自立に向けての関心を持ち始めた。「家事」について一人でできることを増やせるよう取り組んでいる。

《『自力通学』について》

- 在学中、自力通学の練習をしていたが、体調が思わしくなく断念した。自宅から近く、送迎のある施設を進路先として選んだ。
- 在学中に自力通学を経験させておけば良かったと、後悔している。
- 在学時に自力通学をがんばったことで、活動範囲が広がり、同時に進路選択が広がった。

数々のエピソードを交えたお話は、「学校生活の間に何をしておくべきか」について考えさせられました。そして私たちのために「良かった」ことだけでなく「後悔している」ことについて語ってくださった生の声は、決して卒業が迫っている高等部だけでなく、どの学部も保護者の方にも聞く価値がある内容だと実感しました。来年度も、たくさんの参加をお待ちしています。

第2回青年学級

9月24日(土)、爽やかな秋空の下、天王グリーンランドにおいて今年度2回目の青年学級が行われました。当日は50名程の参加があり、バーベキューや園内散策、ボール運動などを楽しみました。バーベキューの際は、準備や片付けはもちろん、自分のことを後回しにしてまで食材の準備してくれる参加者もいるなど、さすが社会人という場面が随所に見られました。また、今回はPTAと共催でグラウンドゴルフを行いました。参加したメンバーは、一打一打真剣な眼差しでボールを打ったり、互いの頑張りを笑顔で讃え合ったりしていました。



新 施設紹介

新聞等でも紹介され、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、五城目町の旧大川小学校が障害福祉の事業所として28年12月1日にオープンします。

就労継続支援事業とは

通常の事業所に雇用されることが困難な障害者につき、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業です。雇用契約を結び利用する「A型」と雇用契約を結ばないで利用する「B型」の2種類があります。

<DATA>

◎活動内容：病院やホテル等で使用されるタオル類のたたみ作業や玄関マットの補修、簡単な縫製等

◎開所日：月～土曜日（日曜日定休）

◎開所時間：8：00～17：00 / サービス提供時間は9：00～16：00

◎対象：原則として18歳以上の障がいを持っている方（身体・知的・精神）

◎定員：20名

◎送迎：送迎サービスあり

◎昼食：食事提供サービスあり

◎住所：南秋田郡五城目町大川下豊口字関合13番地1

◎連絡先：018-874-8771 Faxは018-874-8772

※見学の希望や質問などがございましたら学校（進路指導部）まで御連絡、御相談ください。

コラム ちょっとお耳に！②

～「はたらく」ということ～



「はたらく」という言葉を聞くとどんなイメージをもつでしょうか？「会社で働いて、お給料をもらうことです」と答える人も少なくありません。しかし、本当にそれだけでしょうか？障害者や高齢者、また子供は働かないのでしょうか？

「はたらく」の元来の意味は「傍（はた）を楽（らく）にする」ことです。つまり、「自分のはたらくことで周囲の人を楽にしたり、幸せにしたりすること」となります。

では、障害者のある子供の場合はどうかということになります。例えば…

会社勤めをしているお母さんが疲れて帰宅します。そうすると、子供が「お帰りなさい」と笑顔で出迎えてくれます。そして、お母さんは子供の表情を見て「子供が今日も元気でいてくれた！」と疲れが癒され、次の日への糧となります。

このように、子供が「健康で、笑顔でいてくれる」ことも、「はたらく」ということになります。そして、「家庭」という最も基本的な社会で、子供が立派に機能していることとなります。子供は「家庭」、「町内会（居住地）」、「学校」そして「社会」へと機能する社会を徐々に広げていきます。最近では、「自分さえ良ければそれでいい」と言う人もいます。もっと広い意味で「はたらく」を考えたいと思っています。（進路指導部主事：小川）